

国民保護業務計画

埼玉高速鉄道株式会社

令和6年4月1日

第1章 総 則

(計画の目的)

第1条 この計画は、武力攻撃事態等における国民の保護のための措置に関する法律（平成16年法律第112号。以下「国民保護法」という。）第36条第2項及び第182条第2項及び「国民保護に関する埼玉県計画」（平成18年1月作成。以下「県計画」という。）の規定に基づき、埼玉高速鉄道株式会社（以下「会社」という。）の業務に係る武力攻撃事態等（武力攻撃事態等及び存立危機事態における我が国の平和と独立並びに国及び国民の安全の確保に関する法律（平成15年法律第79号。以下「事態対処法」という。）第2条の武力攻撃事態及び武力攻撃予測事態をいう。以下同じ。）における国民の保護のための措置（以下「国民保護措置」という。）及び事態対処法第21条第1項の緊急対処事態における緊急対処保護措置の的確かつ迅速な実施に資することを目的とする。

(基本方針)

第2条 会社は、武力攻撃事態等において、国民保護法その他の法令、国民の保護に関する基本指針（平成17年3月25日閣議決定）及びこの計画に基づき、国民の協力を得つつ、他の機関と連携協力し、会社の業務に関する国民保護措置の的確かつ迅速な実施に万全を期するものとし、実施に際しては、次に掲げる事項に留意するものとする。

(1) 国民保護措置の実施に関する自主的判断

国民保護措置を実施するに当たっては、埼玉県及びその他地方公共団体から提供される情報を踏まえ、武力攻撃事態等の状況に即して自主的に判断するものとする。

(2) 安全の確保

国民保護措置の実施に当たっては、埼玉県及びその他地方公共団体の協力を得つつ社員のほか、会社の実施する国民保護措置に従事する者の安全の確保に十分配慮するものとする。

(3) 利用者等に対する情報提供

新聞、放送、インターネット等の広報手段を活用して、利用者等に迅速に国民保護措置に関する情報を提供するよう努めるものとする。

(4) 関係機関との連携の確保

国民保護措置に関し、平素から埼玉県等の関係自治体、警察、消防、及び会社との直通運転を行う事業者（以下「関係機関」という。）との連携体制の整備に努めるものとする。

(5) 高齢者、障害者等への配慮及び国際人道法の的確な実施

ア 国民保護措置の実施に当たっては、高齢者、障害者等に対する配慮を行うものとする。

イ 特殊標章の使用等に当たっては、国際的な武力紛争において適用される国際人道法の的確な実施を確保するものとする。

(6) 埼玉県対策本部との総合調整

ア 埼玉県に武力攻撃事態等対策本部（以下「埼玉県対策本部」という。）が設置され、武力攻撃事態等対策本部長（以下「埼玉県対策本部長」という。）による総合調整が行われた場合には、その結果に基づき、所要の措置を迅速かつ的確に実施するよう努めるものとする。

イ 埼玉県対策本部長により避難住民の輸送等に関し指示が行われた場合には、国民保護法に基づき所要の措置を的確かつ迅速に実施するものとする。

第2章 平素からの備え

(活動体制の整備)

第3条 会社の業務に係る国民保護措置及び緊急対処保護措置に関する事務について社内の連絡及び調整を図るための体制を整備するものとする。

(情報連絡体制の整備)

第4条 会社の管理する施設等の被災の状況、国民保護措置の実施状況、運行状況等の情報を迅速に収集・集約できるよう、連絡網、連絡方法、連絡手順等の必要な事項については「事故・災害等対策規程（平成12年11月15日施行）」に準じて行うものとする。

2 夜間、休日においても、的確に連絡できる体制の整備に努めるものとする。また、武力攻撃災害（国民保護法第2条第4項に定めるものをいう。以下同じ。）により連絡担当者が被害を受けた場合等においても、社内の連絡を確実に進められるよう、障害発生時に備えた情報収集・連絡体制の整備に努めるものとする。

(通信体制の整備)

第5条 武力攻撃事態等において、迅速かつ確実な連絡が行えるよう、関係機関との連携に配慮しつつ、武力攻撃災害により通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等も考慮し、通信体制の整備に努めるものとする。

2 平素から国民保護措置に必要な通信設備の点検を定期的実施するものとする。

(非常招集体制及び活動体制の整備)

第6条 武力攻撃事態等において、国民保護措置を的確かつ迅速に実施するに当たって必要な体制を確立するため、関係社員を非常招集等する場合は「事故・災害等対策規程」に準じて行うものとする。

2 前項の関係社員は、武力攻撃事態等により交通機関が途絶することを考慮し、複数の経路、移動方法を事前に確認しておくものとする。

3 武力攻撃事態等が長期に及んだ場合は、招集された関係社員の交代要員を確保するなど体制の維持に努めるものとする。

4 防災のための備蓄を活用しつつ、社内に整備されている食料、飲料水、医薬品等の備蓄の整備等に努めるものとする。

(特殊標章の管理)

第7条 埼玉県知事から特殊標章等の交付等を受けた場合は、適切に管理を行うものとする。

(関係機関との連携)

第8条 会社は、平素から関係機関との間で、国民保護措置の実施における連携体制の整備に努めるものとする。

(旅客等への情報提供の備え)

第9条 武力攻撃事態等において、駅構内放送、車内放送、ホームページ等を活用して、運行状況等の情報を旅客等に対し適時かつ適切に提供できるよう、必要な体制を整備するものとする。

2 前項の情報提供の体制整備に当たっては、高齢者、障害者その他の情報伝達に際し援護を要する人に対しても、情報を伝達できるよう努めるものとする。

(警報又は避難措置の指示等の伝達体制の整備)

第10条 埼玉県対策本部長から警報又は避難措置の指示の通知を受けた場合において、社内等における警報の伝達先、連絡方法、連絡手順等は「事故・災害等対策規程」に準じて行うものとする。

(管理する施設等に関する備え)

第11条 武力攻撃事態等において、管理する施設等における避難者及び帰宅者の集中、殺到又は混乱並びに負傷者の発生に備えて、的確かつ迅速な状況判断により、災害や事故への対応に準じて適切な旅客誘導を図るための体制の整備に努めるものとする。

2 武力攻撃事態等において、管理する施設等の応急の復旧を行うため、自然災害に対する既存の予防措置を有効に活用しつつ、体制及び資機材をあらかじめ整備するよう努めるものとする。

3 管理する施設が埼玉県対策本部長により避難施設に指定された場合には、避難住民の受け入れが適切に行われるよう必要な体制の整備に努めるものとする。

(管理する生活関連等施設に関する備え)

第12条 埼玉県対策本部長が生活関連等施設（国民保護法第102条第1項に規程する施設をいう。以下同じ。）の把握を行うに当たっては、管理する生活関連等施設における連絡先を提供するなど必要な協力を行うものとする。

2 埼玉県対策本部長から、管理する生活関連等施設に関する安全確保の留意点が通知された場合には、社内関係者に周知を行う。

3 埼玉県対策本部長から管理する生活関連等施設について、安全確保措置について定めるよう要請があった場合、既存のマニュアル等を活用し、資機材の整備、巡回の実施などの武力攻撃事態等における安全確保措置について定めるほか、安全確保措置の実施に関し、必要に応じて、警察関係に対して助言を求めるものとする。

(輸送に関する備え)

第13条 埼玉県対策本部長からの指示により避難住民の輸送を実施する場合に当たっては、輸送力及び輸送施設に関する情報の提供並びに、関係機関との協定の締結など協力を行うよう努めるものとする。

(備蓄)

第14条 国民保護措置のための備蓄と防災のための備蓄とを相互に兼ねることができるよう、防災のための備蓄の品目、場所等の確実な把握等に努めるものとする。

2 武力攻撃事態等が長期にわたった場合においても、国民保護措置の実施に必要な物資及び資材を調達することができるよう、関係機関や事業者等との間で協力が図れるよう努めるものとする。

(訓練の実施)

第15条 平素より、的確な国民保護措置の実施が可能となるように訓練の実施に努めるとともに、関係機関が実施する国民保護措置に関する訓練に参加するよう努めるものとする。また、訓練の実施に当たっては、実際の通信機器を使用するなど実践的な訓練となるよう努めるものとする。

2 国民保護措置と防災のための措置について共通の措置がある場合には、必要に応じ、国民保護措置についての訓練と防災訓練とを有機的に連携させるようにするものとする。

第3章 武力攻撃事態等への対処

(武力攻撃事態等対策本部等への対応)

第16条 武力攻撃事態等への対処に関する基本的な方針(以下「対処基本方針」という。)が定められ、埼玉県対策本部が設置された場合には、埼玉県対策本部を中心とした国民保護措置の推進を図るものとする。

2 埼玉県対策本部から埼玉県対策本部の設置について連絡を受けたときは、警報の通知に準じて、社内等に迅速にその旨を周知するものとする。

(活動体制の確立)

第17条 埼玉県対策本部が設置された場合には、国民保護措置対策本部(以下「本社対策本部」という。)を設置するものとする。

2 本社対策本部は、社内における国民保護措置などに関する調整、情報の収集・集約、連絡、及び広報その他必要な総括業務を実施するものとする。

3 本社対策本部を設置した時は、埼玉県対策本部に連絡を行うものとする。

4 この計画に定めるもののほか、本社対策本部の組織及び運営に関する事項については、「事故・災害等対策規程」に準じるものとする。

(非常招集の実施)

第18条 国民保護措置を的確かつ迅速に実施するため、「事故・災害等対策規程」に準じ

て関係社員の非常招集を行うものとする。

(情報連絡体制の確保)

第19条 武力攻撃事態等において、管理する施設等の被災の状況、国民保護措置実施状況、運行状況等の情報を迅速に収集するものとし、これらの情報を集約し、必要に応じて埼玉県対策本部に報告するものとする。

2 本社対策本部は、埼玉県対策本部より武力攻撃事態等の状況や国民保護措置を実施するに当たり必要となる安全に関する情報などを収集するとともに、社内での共有を行うものとする。

(通信体制の確保)

第20条 武力攻撃事態等が発生した場合には、直ちに、国民保護措置の実施に必要な通信手段の機能確認を行うものとする。

2 国民保護措置の実施に必要な通信手段に支障が生じた場合は、情報通信施設の応急復旧のため必要な措置を講ずるものとする。この場合において直ちに埼玉県対策本部に支障の状況を連絡するものとする。

3 武力攻撃災害により国民保護措置の実施に必要な通信手段が被害を受けた場合や停電の場合等においては、安全の確保に十分配慮した上で、速やかに応急の復旧を行うものとする。

(安全の確保)

第21条 国民保護措置を実施するに当たっては、埼玉県対策本部から武力攻撃の状況その他必要な安全に関する情報の提供を受けるほか、緊急時の連絡及び応援体制の確立等の支援を受けるものとし、社員のほか、会社の実施する国民保護措置に従事する者の身体に危険が及ぶことのないよう、安全の確保に十分配慮するものとする。

(関係機関との連携)

第22条 関係機関と緊密に連携し、的確な国民保護措置の実施に努めるものとする。

(旅客等への情報提供)

第23条 運行状況等の情報を駅構内放送、車内放送及びホームページ等を活用して、旅客等に対し適時かつ適切に提供するよう努めるものとする。

(警報の伝達)

第24条 埼玉県対策本部長から警報の通知を受けた場合には、社内に迅速かつ確実な伝達を行うとともに、旅客への伝達に努めるものとする。

(管理する施設の適切な管理及び安全確保)

第25条 埼玉県対策本部長からの指導等により管理する施設について、安全の確保に十分配慮の上、巡回の強化など安全確保のための措置を講ずるよう要請があった場合には、その要請の実施に努めるものとする。

2 管理する施設において旅客の誘導が必要となった場合には、的確かつ迅速な判断により災害または事故への対応に準じて、旅客の適切な誘導に努めるものとする。

(管理する生活関連等施設の適切な管理及び安全確保)

第26条 武力攻撃事態において、埼玉県対策本部長から管理する生活関連等施設について、安全確保措置を講ずるよう要請があった場合には、巡回警備の強化など速やかに安全確保措置を講ずるよう努めるものとする。

2 管理する生活関連等施設について安全確保措置を講ずる場合には、埼玉県対策本部長から提供される情報に基づき、該当施設に従事する者等の安全の確保に十分配慮するものとする。

3 管理する生活関連等施設の安全確保措置を講じようとする場合には、必要に応じ、関係機関に対し、指導、助言、連絡体制の強化、資機材の提供、職員の派遣等の支援を求めるものとする。

(輸送の確保)

第27条 埼玉県対策本部長から避難措置の指示の通知を受けた場合には、「事故・災害等対策規程」に準じて、社内における迅速かつ確実な伝達を行うものとする。

2 埼玉県対策本部長からの避難の指示が行われる場合には、緊密な連絡を行うとともに、埼玉県対策本部長からの避難住民の輸送の求めに備え、輸送力の確保等に努めるとともに避難住民の輸送の実施に必要な体制を整えるものとする。

3 埼玉県対策本部長から避難住民の輸送の求めがあった場合には、施設もしくは車両の故障等により当該輸送を行うことができない場合、又は輸送に従事する者の身体に危険が及ぶ恐れがある場合等正当な理由がない限り、これらの輸送を的確かつ迅速に行うものとする。

4 避難住民の輸送の実施に当たっては、当該輸送の求め等を行った者より提供される安全に関する情報等に基づき、当該輸送に従事する者に危険が及ぶことのないよう安全の確保に十分配慮するものとする。

(輸送の維持)

第28条 輸送に必要な施設の状況確認、旅客施設における案内放送、旅客誘導等による秩序の維持等、武力攻撃事態等において旅客を適切に輸送するために必要な措置を講ずるものとする。

2 輸送に障害が生じた場合には、必要に応じ埼玉県対策本部等の関係機関に当該障害について連絡を行うとともに、関係機関の協力を得つつ、他の輸送機関等と連携し、代替輸送の確保に努めるものとする。

(安否情報の収集の協力)

第29条 地方公共団体の行う安否情報の収集が円滑に実施できるよう、業務の範囲内で、照会に応じて安否情報の提供を行う等の協力を行うよう努めるものとする。

2 地方公共団体の行う安否情報の収集に協力し、原則として安否情報の対象となる避難住民及び武力攻撃災害により、死亡又は負傷した者の現に所在する地方公共団体の長に対して安否情報の提供に努めるものとする。

(応急の復旧)

第30条 武力攻撃災害が発生した場合、管理する施設及び設備に関するもの並びにその業務として行う国民保護措置に関するものについて、安全の確保に十分配慮した上で、速やかに施設及び設備の緊急点検を実施し、これらの被害の状況等を把握するとともに、迅速に応急の復旧のための措置を実施するよう努めるものとする。

2 前項の応急の復旧に当たっては、被害の拡大防止を最優先に行うこととし、避難住民の輸送のための輸送路の効率的な確保に考慮した応急の復旧に努めるものとする。

3 前2項の応急の復旧のために必要な措置を講ずるに当たり要員、資機材等によっては的確かつ迅速な措置を講ずることができない場合には、必要に応じ、埼玉県対策本部長に対し、それぞれ必要な人員や資機材の提供、技術的助言その他応急の復旧のための支援を求めるものとする。

4 本社対策本部は、必要に応じ、被災情報及び応急の復旧の実施状況を埼玉県対策本部長に報告するものとする。

第4章 緊急処理事態への対処

(活動体制の確立)

第31条 緊急処理事態に対処するため、埼玉県対策本部が設置された場合には、本社に対策本部を設置する。

(緊急対処保護措置の実施)

第32条 緊急対処保護措置の実施体制並びに措置の内容及び実施方法については、この計画第1章から第3章までの定めに従って行うこととする。

第5章 計画の適切な見直し

(計画の適切な見直し)

第33条 適時この計画の内容につき検討を加え、必要があると認める場合には、自主的にこれを変更するものとし、変更を行った際は、軽微な変更である場合を除き、埼玉県知事に報告するものとする。

2 前項の計画の変更にあたり、必要があると認める場合は、この計画に基づく業務に従事する者等の意見を聴くものとする。